

君の椅子、今年の第一号は高橋菜ちゃん



で行った「君の椅子2012」モデルの発表席上、ママの美代子さん(34)に抱かれて、真新しい木の香りいっばいの椅子を松岡市郎町長から受け取りました。

今年1月に生まれた菜ちゃんは、早くも体重8kgを越えて元気いっばいの女の子。少し暑いほどに晴れわたった日差しを浴び、この日はお昼寝を邪魔されてちよっぴりご機嫌斜めでしたが、パパとママ2人に抱かれて安心していった様子。

君の椅子2012モデルの町内第1号は、25区、農業、高橋健太さん(32)の長女、菜ちゃんに。

5月25日旭川市内の道立旭川美術館

健康さんと美代子さんは「椅子はしっかりとっているし、大事に使いたい」と目を合わせて喜びいっばい。今年のモデルは、長野県軽井沢町で工房「風緑木」を開いている工芸作家、

出光晋さん(43)がデザイン、町内で家具工房「木魂(こだま)」を開いている木工芸家、服部勇二さん(57)が制作しました。

出光さんと服部さんは、ともに旭川市内の家具製造会社、カンディハウス(旧インテリアセンター)の出身。以前職場で一緒だった先輩、後輩の間柄だけに気が通じ合っていたよう。デザインの打ち合わせは1度だけですが、なりと決まったそうです。

出光さんは「緊張することもなく楽しめました」と話しました。制作した服部さんは、2年ぶり2回目の担当。「お互い同僚同士だったこともあるので、出光さんが工場に来てくれた時にその場でやり取りするだけで出来た」

とスムーズな仕事運びが出来たようです。

「君の椅子」プロジェクトは、旭川大学磯田憲一客員教授が代表を務めています。この日は、一緒にプロジェクトに参加している剣淵、愛別両町で生まれた赤ちゃんにも、それぞれ今年第1号で椅子を贈りました。

町内で「君の椅子」プレゼントを受けた赤ちゃんは、2006(平成18)年の51人を皮切りに、翌年51人、3年目51人、4年目49人、5年目69人、昨年50人と、延べ321人に達しました。剣淵、愛別両町を加えて、6年間で延べ437人が小さな居場所のプレゼントを受けています。

旭岳、ロープウェイ下の木道でようやく春到来

旭岳山麓の木道散策コースによりやく本格的な春が到来しました。5月14日、旭岳温泉街の皆さんが雪解け遅いロープウェイ直下の湿地帯で雪割りをし、春を待っていた花々もようやく本格的な出番が到来しました。

5月中旬を迎えてもスキー一般林間コースの旭岳山麓駅付近には、ところどころ約30センチもの残雪が残っていました。日なた湿地帯から白いミスバシヨウと鮮やかな黄色のエゾノリュウキンカの群生が咲き始めています。

例年になく雪が多かった山々ですが、急速な春の訪れで、花々の開花は例年並み。エゾノリュウキンカは5月中旬から下旬にかけて見ごろを迎えました。6月10日ごろには日本一遅い桜、チシマザクラも開花します。



豊作願って神饌田でお田植え祭



6人の介助役と12人の早乙女が水ぬるむ水田に素足で入り、ゆつくりとリズムを刻む田植え唄(うた)に合わせて「ゆめぴりか」の苗を手植えしました。町内の専門学校で日本語を勉強中の台湾からの研修生2人も加わり、初めての体験を楽しみました。

稲刈りに当たる抜穂祭は8月下旬から9月上旬ごろの予定です。昨年は夏場の高温で生育が持ち直し、9月8日に抜穂祭を行いました。

今年の町内田植えは例年より3日程度遅く、15日過ぎから本格化しました。

俳優の宍戸開さんが来町してトークショー



を舞台にしたNHKテレビの番組中、竹田津さんに写真の弟子入りをし、という設定で出演したのがきっかけで交流が出来たということです。

展示写真は、ヒグマ、オオワシ、キタキツネなどの動物たちを撮影してきたライフワーク写真展。同時に宍戸さんの作品も展示しました。写真は動物たちの生き生きとした姿を描き出しています。

セイヨウオオマルハナバチの駆除大作戦

5月19日、羽衣公園でセイヨウオオマルハナバチの捕獲駆除作戦が行われました。

上川総合振興局、NPO(非営利特定活動)法人ねおすが実施しました。大雪と東川町の自然を守る会会員や町民約30人が参加。捕虫網を手に、約1時間公園内とその周辺をパトロールしました。

駆除活動は7年目になりました。この時期は、新女王蜂が新しく巣を作り

始める前、子孫を増やさないようにするために一番効果的な捕獲時期です。

捕獲駆除は、NPOねおすのメンバーらがキトウシ森林公園などすでに5月に入って以来進めています。しかし今年度は1、2匹程度しか女王蜂の姿を確認できず、この日の成果もわずか1匹。参加者は「このままハチがいなくなればいいんだけど…」と話していました。

